

ライフセービング普及のための ジュニア教育プロジェクト

教育・研究 ボランティア 地域交流 その他

〔代表者〕 教育学部 2年 溝越 彩乃

連携先

大洗町
大洗サーフライフセービングクラブ

参加者

大塚 正也 (教育学部 学校教育教員養成
課程 数学選修 1年)
後藤 優季 (理学部 理学科 1年)
伊藤 拓哉 (工学部 知能システム工学科 2年)
玉城 伸之介 (教育学部 学校教育教員養成
課程 教育基礎選修 2年)
秋川 知恵子 (教育学部 教育教員養成課
程 体育選修 2年)
末松 みどり (工学部 生体分子機能工学科 2年)
溝越 彩乃 (教育学部 学校教育教員養成
課程 特別支援教育選修 2年)
齋藤 貴文 (理学部 理学科 3年)
神立 由希 (人文学部 人文コミュニケー
ション学科 3年)
上江洲 智政 (工学部 機械工学科 4年)
久保庭 秀和 (教育学部 情報文化課程
4年)
林 尚志 (人文学部 社会科学科 4年)
笛木 啓太 (人文学部 社会科学科 4年)

プロジェクトの実施概要

(1) プロジェクトの概要

このプロジェクトは、大洗町と連携しジュニア教育プロジェクトを行います。ライフセーバーとして資格をもったものが、大洗町の子供たちと共に地元である大洗サン

ビーチをパトロールしたり、ライフセーバーの監視が行届いた安全な水辺で思う存分体を動かしたり、命の大切さや、自然の偉大さ、環境問題について考えていこうとするプロジェクトです。

(2) 連携の方法・内容

前年度同様、大洗町観光課、NPO 法人海の大学に協力していただき、大洗町の各小中学校や町の子供たちから参加を募ります。実施場所は、大洗サーフライフセービングクラブの協力の下、大洗サンビーチ教育エリアをお借りして行います。プロジェクトの内容は、子供たちに海の知識を教え、本物のライフセーバーと一緒に実際にライフセーバーの体験をし、海という大自然の中でのびのびと遊ぶ、といったものです。

(3) 実施計画

大洗サーフライフセービングクラブのパトロール期間中である7月19日から8月23日の間を利用して、大洗サンビーチ教育エリアで行います。

(4) 期待される成果

子供たちに海の知識を教えることで、水辺の事故防止を目指します。さらに、子供たちにライフセーバー体験をさせることで、命の大切さ・命を救う事の大変さを知ってもらい、「自分たちにできることはなにか」を考えるきっかけづくりになれば、と考え

ています。

さらに、ライフセーバーによるジュニア教育プロジェクトを行っている浜辺は数少ないので、大洗町ジュニア教育プロジェクトが大洗町の観光PRになっていくことを期待します。

プロジェクトの成果報告

(1) プロジェクト結果

2009年に実施したジュニア教育プロジェクトは以下の8つです。

- ・ 8月7日 大洗ジュニアライフセービングプログラム(内原和敬寮, 石崎学園) 21名
- ・ 8月10日 祝町, 夏海小ライフセービングプログラム 雨天中止
- ・ 8月11日 祝町, 夏海小ライフセービングプログラム 雨天中止(午前中)
- ・ 8月11日 大貫小ライフセービングプログラム 20名(午後)
- ・ 8月12日 磯浜小ライフセービングプログラム 105名
- ・ 8月15日 ジュニアライフセービング教室(初級) 13名
- ・ 8月16日 ジュニアライフセービング教室(中級) 2名
- ・ 8月17日 JWWCライフセービング教室 9名

(2) 成果と今後の展望

昨年までは大洗町を通じて要請があった団体についてのプロジェクトを行ってきましたが、今年度は新たな試みとして、大洗サーフライフセービングクラブを通して、自分たちから働きかけ、内原和敬学園、石

崎学園にジュニア教育プロジェクトに参加してもらうことができました。来年度からも茨城県内の児童擁護施設に順番に声をかけていきたいと思っています。なかなか海に遊びに来る機会の少ない子や、さまざまな事情を抱えている子にも同じように海という大自然の中で遊び、学ぶためにもジュニア教育プロジェクトに参加してもらいたいと考えています。

上記している通り、今年は1回のプロジェクトに100人を越える参加がありました。また、小学生だけでなく、中学生の参加もありました。中学生を対象とした、中級のプログラムでは、より実践的なライフセービングに近いプロジェクトを用意する必要があります。今後は大人数にも対応できる安全面の徹底、中学生を対象とした実践的なプログラム、児童養護施設への働きかけ、といった内容を取り入れていきたいと考えています。